

**令和6年度 第2回 清瀬市史編さん委員会
議 事 要 旨**

日 時 : 令和7年3月25日
午後2時～3時
場 所 : 清瀬市郷土博物館講座室
出席委員 : 根岸茂夫、栗山究、黒川徳男、吉田律人、高久舞、齋藤隆雄、坂間利司、
小林典子(8名)
欠席委員 : 浅倉直美、黒尾和久、黒田一美、今村広司(4名)
事務局 : 経営政策部参事、市史編さん室職員2名(3名)

《次第》

1. 開 会
2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について
3. 各専門部会 活動状況について
4. 通史について
5. 『市史研究 きよせ』について
6. 令和7年度市史講演会について
7. その他
8. 閉 会

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 これより令和6年度第2回市史編さん委員会を開催いたします。

2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について

委 員 長 議事に入ります。まず、2の『清瀬市史 5 資料編 近代』の刊行につきまして、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 あと少しで納品というところです。こちらに届き次第皆様のところにお届けする予定ですのでよろしくお願いいたします。

委 員 長 黒川先生、吉田先生大変ご苦労されたと思います。高久先生もご執筆されて、みなさんのおかげでできたのですけれども、ひとこと言っておきたいようなことがあればお願いします。

近代部会長 『清瀬市史 5 資料編 近代』を無事に年度内に刊行できそうです。皆さまどうもありがとうございました。事務局には最後の最後までいろいろとお手伝いいただいて本当に助かりました。2章に掲載しました「村野谷吉日記」は非常にいい史料です。今回残念ながら紙幅の関係で4年分しか掲載できませんでしたが、おそらく清瀬の近代史を語るうえでの基礎資料の一つだと思いますので、今後も継続して翻刻していく必要があると思っています。

もう一つ大きい資料群に、在郷軍人関係の資料があります。これに関しましても将来的になんらかの形でまとめていければと思っています。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

委員長 黒川先生、高久先生何か。

現代部会長 清瀬市の近代ですが、明治、大正の村会の会議録が大量にのこっておりまして。それを積極的に活用したというところがポイントの一つかなと思います。あと、残念な点は産業、農業についての史料が載せきれなかったことです。史料は多くあるのですが。そういった史料は、今度の通史編で活用していきたいと思っています。

民俗部会長 主に「村野谷吉日記」を担当しました。非常に面白い史料で、農事日記なのですが、天気のことを含めてかなりこまかく書いてあります。今回は明治17年～20年の期間を掲載しました。養蚕の話が出てきて、もう少しくと養蚕がだんだんとなくなっていくという変化があります。あと非常におもしろいのは交易の広さです。もともとは近場だったものがだんだんと江戸といえますか、東京の都内のほうに、具体的には馬喰町などに買い付けや、売りに行くといった広がりが見えてきます。日記は大正の元年までありますので、そのあたりがどのように変わっていくのかが気になるところです。『清瀬市史 8 民俗』にも「村野谷吉日記」を掲載できればと思っています。

『市史研究 きよせ』第10号「石碑・石仏探訪」に出羽三山の石碑が取り上げられていました。『清瀬市史 5 資料編 近代』「第7章第3節人々の信仰」に、出羽三山の石碑を建てたという話や、参詣日記などの旅行記を掲載しました。富士講、稲荷講だけではなく、いろいろな講が盛んであったということが見えてきたということです。

委員長 『市史研究 きよせ』第10号の出羽三山の石碑については坂間委員が書いておられましたけれども、何かございましたら。

委員 研究不足でわからないままに、今回書くことになって初めていろいろと調べてみました。出羽三山の碑は八幡神社にもありますが、どうして下宿にあるのか、不思議に思っていました。

委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

委員 了承

3. 各専門部会 活動状況について

委員長 それでは次に、各専門部会の活動状況について、特に考古、古代・中世、近世は今年度で部会が終了することになりますけれども、まず考古と古代・中世部会は事務局の方から部会の活動について何かあればご報告ください。

事務局 部会の活動については、『市史研究 きよせ』第10号52ページからの部会の活動報告に代えさせていただきます、ご覧いただければと思います。

委員 長／近世部会長　近世も同じように、『市史研究 きよせ』第10号の55、56ページに掲載しています。今年度は、基本的には通史に向けての執筆をしています。今後の課題として、特に史料の整理が途中になっているということ、清瀬に関する史料がまだ集めきれないということを書いております。

事務局　今後必要な調査などがあつた場合は、お声がけください。考古、古代・中世、近世の各部会につきましては、これから、通史編の上巻を執筆していただくことになります。通史の編集会議のようなものを設けますので、部会長の先生たちには、執筆の調整などお願いしたいと思いますので、4月の段階でお知らせしたいと思います。現代部会に関しましても、今後は通史編と調査報告書について携わっていただくというように考えています。

委員 長　わかりました。では現代部会についてご報告ください。

現代部会長　現代部会ですが、リハビリテーション学院というものがかつて清瀬にありまして、日本で最初のリハビリ教育を始めた学校です。その史料が作業室にあります。かつて『市史研究 きよせ』第7号にリハビリテーション学院について書かせていただきました。本格的な報告書を出したいと思います。来年度の事業として、リハビリテーション学院の史料について、150ページの報告書を予定しています。以前根岸先生のお宅から、先生のお父上の、清瀬市の審議委員関係の史料、段ボール箱数箱が作業室にございまして、その資料群の目録化の作業も進めていきたいと思います。通史編の作業も進めていきます。

委員 長　資料編を刊行した各部会の報告がありました。リハビリテーション学院の史料のお話がありましたが、小林委員が『市史研究 きよせ』第10号でリハビリテーション学院の石碑を取り上げられましたので、補足できるようなことがあればお話していただければと思いますが。

委員　私は保健師、看護師のほうが専門です。ただ結核研究所におりましたので、研究所の所長や疫学のほうからリハビリテーション学院に講師として行ってらっしゃったのはよく覚えています。黒川先生がおっしゃったように教育の基礎を受け継いだ方たちが清瀬から全国に発信をされました。『市史研究 きよせ』第10号の執筆（69～71ページ）にあたり、改めてリハビリテーション記念碑を見せていただいて、清瀬としてとても大切なことなのだと思います。学院は本来であればもっと続くはずだったのですが、国のいろいろな動きのなかで閉校になったということも何かの形で残せればよいと思います。結核研究所の中に関係する史料があるかどうかというのは、関係者の方に伺ってみたいと思います。

委員 長　ありがとうございました。これから、通史と資料編が続きます、近代部会、民俗部会、結核療養部会についての報告を近代部会の吉田先生からお願いします。

近代部会長　資料編ができたところですが、まだ課題はたくさん残っています。先ほど黒川先生がおっしゃったように経済関係が手つかずでしたので、将来的に補遺のような形で公表したいと思います。在郷軍人関係のものも同様です。高久先生とも話していますが、「村野谷吉日記」は全文翻刻していきたいで

す。村野日記は難読で、なかなか一筋縄ではいかない史料ではありますが、再三述べているようにこの地域にとってよい史料なので、何とか世に出せればと思います。また、旧家のうちの一か所で、調査の調整をしているときいています。予算と人手があるうちに行なったほうがよいでしょう。調査員の学生たちにとっても、史料整理の段階から携われる機会はなかなかありません。学芸員、次の世代のアーキビストたちを育てる意味でも、清瀬市史の編さん事業というのは重要な場となっていますので、そのような機会があれば、もっと博物館と協力してということになると思いますが、参加できればと思います。

委員長 ありがとうございます。近代・現代部会につきまして何かご意見ございませうでしょうか。よろしいでしょうか。それでは民俗部会の高久先生お願いします。

民俗部会長 令和 8 年度の刊行に向けてということで、今年度は少しエンジンをかけつつやっております。編さん委員の先生がたにもお世話になっておまして、専門調査員がお話を聞いたり、お祭りを見たりしています。今年度残念だったのは、「火の花祭り」が台風で中止となったことです。お祭りの調査というのは、こうして年に一度の行事が中止になってしまうと、難しいところがあります。下宿地域では、盆行事の調査について、盆棚作りとか、迎え盆について、かなり詳細に撮影しました。地域社会の中の交際に注目しています。先日部会を行なってわかったのは、自治会活動をしているところもあれば、自治会に入るのは新住民だけというところがあります。まだ組合が生きているところ、講が生きているところなど、地域による違いがかなりあるということが見えてきています。生活の変化というところを中心に見ており、『清瀬市史 8 民俗』でそのあたりが描ければと思っております。令和 7 年 4 月 26 日に予定している部会では、章立てを検討する予定です。来年（令和 8 年）の夏前には執筆を終えるというように考えております。

中清戸の上組の稲荷講の講元さんから、昭和期の稲荷講の資料をお借りしました。民俗部会は、翻刻が非常に苦手です。できれば近代・現代部会の調査員たちをお願いしたいと思っています。さきほどから話題に出ている「村野谷吉日記」につきましては、できれば『清瀬市史 5 資料編 近代』と同様の人員でお願いしたいと思っていますので、予算についてもですが、事務局と相談して進めたいと思います。

委員長 齊藤委員は民俗部会の調査にずいぶんご協力くださっているそうですが、ひとこといただけますか。

委員 中清戸のほうには史料らしいものは残っていませんで、口伝えがほとんどです。ご担当の先生が、いろんな行事に参加されていまして、私は感心してみています。

民俗部会長 今後も各地域で活動していきますので、先生方よろしくお願いいたします。

委員 民俗に関することは、世の中と一緒でだいぶ変化が大きいので、どこまで続いていくかというのが見えなくなっている状況です。昔の農村のような、家庭をきちんとつないでいくような家が、だんだん少なくなってきました。

す。それと同時に祭りだの、神社、お寺さんの行事、いろいろ含めてなかなか受け継いでいかれなくなっている状況です。下宿の「ふせぎ行事」では、きちんと技術の継承をしたいのですが、口頭での説明や、映像を見るだけでは難しい。手で作っていくものなので、手の技術をきちんと教えるようにしています。70 代前後の方が何人か一緒にやってもらえるようになっていけば、こういうものも途絶えないかなと思います。新しくやってもらえる人を、できるだけ毎年入れるようにしたいと思っています。これが「ふせぎ行事」とお祭りのようなものの違うところかなと。うまくつないでいけるよう苦心しています。民俗部会の先生が本番のお祭りだけでなく、事前にも来て、いろいろと映像に残してもらえるのはよいと思っています。

委員長 ありがとうございます。そういう課題を『清瀬市史 8 民俗』で書いていただくのも必要かと思います。だからこそ今、民俗の調査をきちっと行う必要があると思います。これからも先生がたよろしく願いいたします。

事務局 これから『清瀬市史 1 通史 上巻』、『清瀬市史 8 民俗』、『清瀬市史 9 結核療養』、『清瀬市史 2 通史 下巻』が出るわけですが、調査をしていただいている段階でありますので、今後の調査や、報告書についての予算についても確保していきたいと思っています。市内の蔵の建て替えなどの情報がありましたらぜひ私どものほうにお知らせいただくと助かります。情報があればかけつけて調査できるようにしていきたいと思っています。

委員長 ありがとうございます。本日は黒尾先生がご欠席ですけれども、結核療養部会について、事務局からお願いします。

事務局 黒尾先生からは『市史研究 きよせ』第 10 号のご報告の通りということです。清瀬市としては、結核療養サミットというのを今年の 11 月頃に実施する予定です。市内の関連施設、他の自治体ともご一緒させていただきながら、結核療養と清瀬に関わる歴史を話していきたいと考えております。また現在の状況や、課題を議論できればという予定です。それにともなって、結核療養の歴史を学ぶアンバサダーを市内在住・在学の中高生にも呼び掛けていまして、清瀬における結核療養の歴史を学ぶ機会を作ることも考えています。そこに結核療養部会に参加していただき、市史に反映していけたらと思います。

委員長 具体的なことがわかりましたら各委員にお知らせいただければと思います。よろしいでしょうか。

委員 了承

4. 通史について

委員長 次に通史について、まず事務局からお願いします。

事務局 令和 8 年度に『清瀬市史 1 通史 上巻』を刊行予定でございます。『清瀬市史 8 民俗』と同じ年度になりますことから、秋までの刊行を目指して、先生方にもご協力いただいているところです。今の段階でのお話ですが、通史の編集会議といったものを 4 月からできるように進めているところです。

古代・中世部会、近世部会、考古部会の3部会で、部会長の先生方に構成、編集についてお話いただきながら、根岸委員長に監修をしていただきたいと考えています。それぞれの部会では、部会員のみなさん、執筆者のみなさんとお話をして進めていただくということになると思います。今回の上巻のスキームを下巻のほうにもそのまま移行させたいと思います。上巻の執筆要綱などは下巻でも使用すると思いますので、そういった情報については逐次先生たちに共有したいと思います。ご意見がございましたら反映させていきながら進めたいと思います。

委員長 『清瀬市史 1 通史 上巻』につきましては、上のように進めているということですが、『清瀬市史 2 通史 下巻』も令和 10 年度に出すことになって、下巻に関わる先生方にはいろいろと検討を始めていただいているところですが、そのあたりについて、簡単にご説明いただけますでしょうか。

近代部会長 『清瀬市史 5 資料編 近代』は明治維新から、『清瀬市史 6 資料編 現代』は東日本大震災までを取り上げました。経済、政治、社会をバランスよく構成できるようにするには、このメンバーだけではカバーできないところもあるので、増員するかもしれません。次年度中には目次や構成を詰めていきたいと思っています。平成は全部入れてもいいかもしれませんね。

現代部会長 その辺は検討します。もちろん、民俗部会、結核療養部会の方にも書いていただいて。私のイメージの中では、明治から平成の通史で半分くらい、四分の一くらいが民俗、四分の一くらいが結核療養と考えています。

委員長 刊行年がどれも近いので、結核療養と民俗がちょっと大変になりそうに思います。できれば、民俗編、結核療養編に集中いただいて、きちっと作っていただいて、通史の中で書けるところを書いていただくというほうが、それぞれの編に集中できるかなと思います。調整いただければ。

現代部会長 近代・現代でベースとなる部分を押さえて、調整しながらやっていければ。

委員長 そうですね。ありがとうございます。資料編を読まずに通史だけ読むかたもおられることを考えると、通史の結核療養、民俗の部分はうまくまとめを書いていただく必要があるかもしれませんね。
ご意見ご質問いかがでしょう。

民俗部会長 令和 8 年度に通史と民俗を刊行ということですが、令和 8 年の秋に刊行するのが通史ですね。『清瀬市史 8 民俗』は、令和 9 年の 3 月刊行ということで、わかりました。

事務局 『清瀬市史 8 民俗』について、現状の進行としてはいかがでしょうか。

民俗部会長 新たに史料が出てくるということもありますし、先ほどお話したように調査を予定していても行事が中止になったということもあります。現状だと、刊行までに調査できる行事はすべてあと 1 回ですので、中止ということがあると残念です。「村野日記」を入れていくということになりますと、翻刻の時間も刊行までにはそうありませんし、令和 8 年度末より半年先の令和 9 年度の秋刊行であれば、少し余裕がでてくると思います。この方向でゼ

ひ進めていただければと思います。

事務局 現代部会と近代部会のほうで、調査をこれからもされるということなのですが、決まり次第教えていただければと思います。

委員長 これについて、何かご質問いかがでしょうか。事務局の体制もありますし、民俗ですと行事がないと書けないところもありますので、そのあたりも調整していただければと思います。よろしいでしょうか。

委員 了承

5. 『市史研究 きよせ』について

委員長 では、『市史研究 きよせ』について事務局のほうからお願いします。

事務局 『市史研究 きよせ』第 10 号では、市史編さん事業が始まりまして 11 年になるということで、35 ページからこの辺りをまとめております。始まりは職員 2 名と嘱託職員 2 名という体制でした。この間の市制施行 50 周年の展示や、「市史で候」、「文学散歩」のブログも掲載しています。『市史研究 きよせ』は毎年刊行していますので、今後 11 号以降 14 号くらいまでになるかと思いますが、新出の資料についてなどまとめていければとおもいます。

委員長 ありがとうございます。市史研究につきまして、ご意見ご質問、よろしいでしょうか。

委員 了承

6. 市史講演会について

委員長 それでは、令和 7 年度市史講演会について、お願いします。

事務局 はい、例年、前年度に資料編を刊行いただいた部会の先生に講演会を行なっていたいておりますので、ぜひ吉田先生にお願いしたいです。

近代部会長 はい、わかりました。今年は戦後 80 年なので、『清瀬市史 5 資料編 近代』にも掲載しました、戦争に行かれた方の軍事郵便、休心庵に立っている石碑を取り上げたいと思います。石碑が建つ経緯が全部わかる史料があり、今回全て翻刻しました。石碑で顕彰されている方が、旅順要塞を攻めていた時の軍事郵便がありまして、それを送った次の日に亡くなっています。村がどのように慰霊したのかという、石碑を建てる際の文書が残っています。それを基に、日清・日露戦争の話が中心になりますけれども、明治維新から日本がどのように軍隊というものを作り、戦争をして、それは地域とどうかかわっていたのか、ということをお話できればと思います。

委員長 はい。お願いします。
ご意見、ご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委 員 長 了承

7. その他

委 員 長 では、その他について、事務局からございますか。

事 務 局 今年度をもちまして香西が事務局を離れることになりました。来年度以降は、結核療養部会に専念をすることになりますので、一言。

『市史研究 きよせ』第10号の「特集 清瀬市史編さんの11年」をまとめながら、これまでの日々を懐かしく振り返りました。来年から組織が変わり、『清瀬市史 9 結核療養』をまとめる期日もかなり迫ってまいりましたので、市史編さん室からは卒業させていただいて、部会の仕事に専念したいと思います。結核のことで、市史に関わり続けることになりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

委 員 長 ありがとうございます。

事 務 局 今後の体制につきましては、私はそのままかわっていきます。郷土博物館には、民俗学、近世専門などの学芸員がおりますので、それぞれ市史に関わらせようと思っています。よろしくお願いいたします。

委 員 長 ありがとうございます。香西さんは、市史の立ち上げのころからずっと来ていただいて、本当にお世話になりました。市史の生き字引のような役割を果たされていると思います、長い間本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

何かほかにはございますか。

民俗部会長 さきほど『清瀬市史 8 民俗』の刊行年が延びる可能性についてのお話がありましたが、もしそのように決まった場合、ご連絡をいただけるのはいつ頃ですか。

事 務 局 令和7年度第1回の会議に諮ろうかとおもったのですが、今日はいいい機会なので先生方から『清瀬市史 8 民俗』の刊行についてご意見を伺えればと思います。

委 員 長 特に民俗の場合、先ほど坂間委員からもお話がありましたけれども、今消えつつあるというところもあると思います。そこをきちんと調査するというようなことをしないと、次の市史が出るまで30年後、40年後でしょうか。もう永遠になくなってしまうというようなことを考えると、半年延びてもずいぶん助かるのではないかという気が私はしております。

民俗部会長 執筆が終わった後に、話者確認という、掲載してもよいかどうかという確認を、お話をうかがったお一人ずつにとっていく必要があります、事務局にお願いすることが出てくると思います。現状の刊行計画ですと、通史刊行の大変な時にそれが重なってしまうと思いますので、『清瀬市史 8 民俗』が少しでも延ばせるならばそうしていただけると嬉しいです。

事務局 例えば清瀬の食の歴史なども、担い手がだんだんといなくなってきたということがあるので、市史に掲載することで、昔清瀬でこんなことが行われていたということを振り返るきっかけとなればと思います。道具などを博物館に寄贈していただけるということは、保存する方がいらっしゃらなくなっているということだと思います。

民俗部会長 民俗学専門の学芸員の方がかわってくださるのであれば、それこそ食といった、身近な部分をやっていただきたいです。

委員長 他にご意見いかがでしょうか。みなさん延びたほうがよいという感覚を持たれているという。

近代部会長 さきほどのお話ですが、お祭りがあと 1 回しか見られないというのはまずいので、できれば延びたほうが。

民俗部会長 新型コロナウイルス流行期で見られなかった時期がありました。「清戸獅子」については調査が始まってから 2 回見るできています。他にもいろいろな行事、「ふせぎ行事」やいろいろな講もあります。ぜひよろしくお願いします。

委員 1 年に 1 回というものが多く、「ふせぎ行事」も含めて、毎年やらないと受け継いでゆくのは難しいものです。

民俗部会長 特に専門調査員のみなさんから伺っている話だと、新型コロナウイルス流行期で講がなくなっていった、稲荷講が縮小したとか、やらなくなってしまったという話をききます。清瀬といえば、民俗的に言えば稲荷講ですが、今も続けられているということを示すことができればと思っています。

委員 先生おっしゃいますように、新型コロナの一件でだいぶ変わりました。特に冠婚葬祭のやり方がガラッと変わりました。もしかすると元に戻らないと思います。いま記録をとっておくというのが、最後のチャンスかもしれないと思います。

近代部会長 冠婚葬祭の話で、少しずれるかもしれませんが、昔は、冠婚葬祭は各家で全部用意されましたか。

委員 はい。

近代部会長 ある時から仕出し屋がでてきたのではないかと思います。そういう文化はこの辺りでも変わっていくものではないでしょうか。仕出し屋に来てもらって家でやるとか、それが仕出し屋ではなく店に行くようになった、というように変わっていったということでしょうか。

委員 昔は葬儀を自分の家でやっていました。葬儀が終わった後の飲食は、まず、お客さんをもてなして、その筆頭はお坊さんですが、飲食が終わって、お坊さんが退席すると、他のお客さんも帰ります。そのあと、家族が、葬儀を手伝ってくれた組合の人、隣近所の人をもてなす、というような二段階でした。中清戸の例でいいますと、葬儀をお寺の斎場で行うようになり、その後の飲食を控室でおこなうようになってから、飲食は一度で済ませ、料理は仕出

屋に頼むようになったと思います。葬儀の簡略化は、新型コロナの流行で、ますます進んでいるように感じます。

委 員 いろいろなサービスが整ってくればくるほど自宅で行なう必要が無くなってくるともいえます。人間だから少しでも楽がしたいところがありますし。土葬の場合には、組合がなければ葬儀は成り立ちませんでした。土葬をきちんと行うために、寄っている（組合がある）わけなので。斎場と、接待をする仕出し屋さんがあれば、参加する人も一部分だけいけばよいということになります。祭りも同じです。稲荷講の組合では、講の中の持ち回りで、下宿の場合だと 25 年に一度当番が回ってきます。家も、そのためには最低でも 8 畳 2 間の間取りが必要です。一度集会所のようなところを使うと、その後はそれに倣うようになって、建築も変化してくるというか、一気に変わってしまったといえますか。変化の時期になるとずいぶん早く変わってしまうものです。葬儀のほうはまだ残っていますが、結婚式は、まったくなくなりました。

委 員 長 ありがとうございます。今『清瀬市史 8 民俗』の刊行について重要な話が出ましたけれども。他に何かございますか。

事 務 局 考古部会長の件についてお願いします。

委 員 長 谷口先生は令和 6 年 11 月の市史編さん委員会委員の更新があったときに、大学の都合で辞めざるを得ないというような話があり、就任はされていませんでした。ところが、このところ事情が変わり、大学の制度的に問題ないことが確認され、また、清瀬の市史編さんにこれまで関わってこられて、『清瀬市史 7 資料編 考古』もまとめられた経緯もあるので、通史にも関わりたいという意向を伝えてこられました。考古の資料編もずいぶん特徴のあるものを作っていただきましたので、ぜひ戻っていただいて、通史の執筆もぜひお願いしたいと思っていますところですよ。

事 務 局 根岸委員長からのご推薦ということで、まずは市史編さん委員としての委嘱の件と、考古部会のとりまとめ、編集会議の考古部会代表という形で出席していただけるように、進めたいと思います。また正式に決まりましたら皆さまにお知らせいたします。

委 員 長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

事 務 局 講演会の時期はいつがよいでしょうか。

近代部会長 例年はいつごろでしょうか。戦後 80 年の話になってくると夏くらいがいいですね。

委 員 長 8 月 15 日の前くらいにやっていたいたほうが、みなさん興味もでるのではないかと。

事 務 局 回目の 7 年度の最初の会議はできるだけ早めに設定したいと思います。具体的な日程は改めて調整したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委 員 長 よろしいでしょうか。

委 員 了承

8. 閉 会

委 員 長 これで令和 6 年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。どう
もありがとうございました。